

2016年 第64代 理事長 岡田 和徳

フォルティッシモの心で

～自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ～



主な事業

松山春まつりお城まつり
愛媛マラソン支援事業
わんぱく相撲(まつやま場所・全国大会) 事業
わかづきファンド管理・運用事業
道後温泉一番走り～湯上り頂上決戦～事業
まつやま市民シンポジウム事業
まつやま活性化コンテスト 街から里島へ
～Create the flow of people～事業
「アカペラ・グランプリ2016 in 堀之内
～ことばのちからをハーモニーにのせて～」事業



公益社団法人松山青年会議所 2016年度理事長所信

公益社団法人松山青年会議所
岡田 和徳

わが国には、現在、少子高齢化や人口減少、進学、就職に伴う若者の在京志望、生産年齢人口の減少、高齢化の進展の先にある日本の将来の姿や、世界的な食料、資源不足、環境汚染、防災整備など様々な課題を抱えております。株価上昇など一時的な景気回復が見られますが、こうした効果は都市部や大企業など一部にとどまっており、中小企業や小規模企業の多い地方にまで十分に及んでいない状況にあります。私たちが住み暮らす松山でも同様の課題を抱えており、活気ある地方を取り戻すためには、地域産業の活性化、雇用の増大を図るとともに、次世代を担う人財を地域の中で育成し地元で定着させることが必要です。また、このまちを拠点として、大都市圏や海外に事業展開できる土壌も求められています。私たち青年は、責任世代として日本、世界へと目を向け見識を深めるとともに、わがまち松山で地に足の着いた確かな運動、事業を続けることにより、松山の課題を解決し、日本、世界の課題について取り組んでいく気概と覚悟をもたなければならないと考えております。

【はじめに】

私は、入会する前は東京の印刷工場で働いており、主には生産性の向上、合理的な経営を日々学んでおりました。そして、松山に帰りJCと出会いました。入会した当初、「月に2回の出席義務など時間が取られるのではないか」「会社にとって利益となる学びがあるのだろうか」「JCに入って自分が本当に成長できるのだろうか」など私は不安な気持ちを抱えていました。しかし、視野の狭かった私の考えを少しずつ変えていくことができたのは、仲間との貴重な出会いでした。経営者であり、家庭の良き親であり、PTA会長、町内会長、他の経済団体にも所属し、JCでも精力的に活動をしている先輩の背中に大きな衝撃を受けました。ひとり何役も前向きに演じている先輩の背中に自分自身も一つの場所にいるだけでなく、多くのチャレンジをしていかなければならないと私は強く決意しました。

【座して滅ぶよりは出でて活路を求めん】

この言葉は三国志時代に小国の蜀が大国の魏に攻めていく時に、諸葛亮孔明が発せられたと言われる言葉で、何もしないでその場に立ち止まるよりは、自ら厳しい局面に立ち向かうことで未来を切り拓くという意味であります。これは私の座右の銘であり、困難に出会ったとき、弱気になったとき、私はこの言葉を思い出して、より強い気持ちで物事に取りかかります。人生には三つの坂があると言われております。「上り坂」、「下り坂」、「まさか」、全ての時が順風満帆ではありません。どのような場面でも、どんな立場であっても、力

を發揮しなくてはなりません。様々な困難に直面した時に、メンバー全員が目的に向け一歩前へ進むことこそが、明るい未来へつながると信じております。

【公益社団法人としての活動】

公益社団法人として2年目を迎える松山青年会議所として、活発でスムーズな議事運営を目指して、全てのメンバーがより自発的に活躍できる環境作りの徹底が必要となります。公益性を踏まえた組織を動かすうえで特に重要なのが、総務と財政です。総務は、組織とそのメンバーを支える、いわゆる組織の土台となります。組織のルールである定款及び諸規定の精査、検討を行い、公益社団法人として公益目的事業、収益事業等、法人会計の透明化を図り、公益目的事業比率や総務の手続きをしっかりと管理し、組織を運営していく必要があります。また、財政面は、公益社団法人として組織を円滑に運営するために、財政局を中心に予算内容の費用対効果や健全性を議論し、適正な財務運営を行い、しっかりと組織の運営ができるようにしていきます。

【2020年まつやままちづくりビジョンについて】

松山青年会議所では、2002年に8年後の未来を見据えて、2010年まつやままちづくりビジョンが策定されました。しかしながら単年度制であるが故に多岐にわたる8つの柱すべてを網羅した運動・事業を推進することが非常に困難であることが判明し、「地域コミュニティ（福祉・環境）」・「歴史・文化（まつり）」・「ひとづくり（教育）」・「地域振興（情報・産業）」の4つのビジョンからなる10年指針「2020年まつやままちづくりビジョン」が策定されました。基本コンセプトは、青年会議所のまちづくりにおける役割、方向性及び、普遍的価値に基づくものであり、我々青年会議所の目指すまちづくりの方向性を示唆しております。「2010年まつやままちづくりビジョン」を踏襲して、1年ごとに更新される短期アクションプラン、4～5年スパンの中期運動指針、そして10年スパンの長期ビジョンとして展開していく必要があります。2015年度は、4つのビジョン達成のため中間検証が行われ、松山青年会議所が目指すまちづくりにおける役割と方向性を導き出しました。2016年度は中間検証からの実践1年目となり、まちづくりの理念、長期ビジョン、中期運動指針、基本行動指針を軸に事業を展開していきます。

【四国地区お遍路3カ年アクションプランとの連携】

郷土の歴史・文化遺産を守り、郷土愛あふれるまつやまを目指します。さらに全国・世界におけるまつやまのファン獲得へと発展させるために、『「四国八十八箇所霊場と遍路道」を題材とした事業3カ年アクションプラン』と連携していきます。四国八十八箇所霊場開創1200年の節目を迎えた2014年、公益社団法人日本青年会議所四国地区協議会では『「四国八十八箇所霊場と遍路道」を題材とした事業3カ年アクションプラン』が審議可決されました。四国のお遍路文化を題材に、伝統・文化を継承し、地域の活性化を図り、お遍路文化の世界遺産の登録に向けた取り組みを示す3カ年に亘るアクションプランになります。松山市内には四国八十八箇所霊場が8カ寺あり、訪れるお遍路さんを「おせったいの心」であたたかく迎え入れ、その文化は松山でも深く根付いております。四国松山から世界に誇れる「おせったいの心」の文化を次世代に継承するため、「四国は一つ」の合言葉

のもと、3カ年アクションプランを押し進めていきます。

【松山春まつりお城まつり】

1969年、社団法人松山青年会議所が初めてお城まつり（大名行列）に参加し、メンバー全員が松山城から大街道、湊町、道後温泉商店街を練り歩きました。松山城築城400年にあたる2002年に運営主体を松山市より社団法人松山青年会議所に任されて以来、数々の改革と新企画に取り組んできました。諸先輩が築き上げ、脈々と受け継いできた松山春まつり（お城まつり）を、市民が主体的、自立的、創造的に取り組み、さらに発展させていくことが必要とされています。城山公園、さらにはまちのたからを増やすため、松山城二之丸史跡庭園の魅力にも注目していきます。

【青少年育成と参加者満足度向上を目指すわんぱく相撲】

「わんぱく相撲全国大会」の地方予選として、毎年「わんぱく相撲まつやま場所」を開催しております。これまで小学生たちに相撲を通じて心身の健全な成長を促し、社会生活に必要な徳性を養う機会を提供してきましたが、競技に参加する小学生たちだけではなく、参加者や観客の満足度の向上を図ります。

【地域の活性化を主軸とする道後温泉一番走り】

2012年度に松山青年会議所創立60周年記念事業として、第1回道後温泉一番走り～湯上り頂上決戦～が開催されました。参加者及び観客、事業に関わった方々に松山の誇るべきだからである道後温泉の魅力を再認識していただきました。松山が国際観光温泉文化都市としてさらなる発展を遂げるために、事業に関わりを持っていただく人々を増やし、道後温泉周辺の活性化につなげます。

【まつやまの魅力を語る人を創る市民シンポジウム】

まつやま市民シンポジウムでは、未来のまちづくりに向けた課題や今後の展開などについて、市民の皆様とともに考える機会を構築します。私自身、2014年度に開催された全国大会松山大会を誘致する段階では、松山の魅力を上手く伝えることができませんでした。しかし、全国のメンバーに松山に訪れていただくために郷土のことを学び、このまちのことが語れるようになりました。そして全国大会では多くのメンバーに松山に訪れていただきました。松山を知り語る機会を提供して、より良い松山を創るために発信していく必要があります。

【地域と連携した事業の展開】

連綿と受け継がれてきた事業を進化させ、地域と連携していきます。愛媛マラソンでは2010年度から、参加者へのおせっかいとして、いもたきを実施しております。この機会を生かして松山青年会議所を効果的にPRしていきます。ことばを送る基金では、過去2年間の中間検証を実施して、より効果的な発信方法を検討します。さらに事業の中で国際交流をすることで、外国人を含む多くの交流人口を生み出し、行政、他団体、メディアと連携して外国人観光客や留学生にも事業に参画していただきます。地域連携強化事業では、

まちづくりの運動を伝播させるため、行政や他団体、教育機関等と密接に連携を図った事業を推進します。少子高齢化、核家族化の進む中、他者とのコミュニケーションやそれに伴う経験、体験が不足することにより、社会の中で様々な問題を起こす一因となっております。次世代育成事業では、次世代を担う人財を育成するため、体験型、体感型の事業を通して様々な経験を提供します。また未来に向けて安心して暮らせるまちのために、防災意識を向上させます。

【参議院議員通常選挙 公開討論会】

参議院議員の任期が2016年7月25日に満了します。政策本位の政治選択をし、政治に対する関心を高め、自らが考え抜いて一票を投じる必要があります。公正中立な立場から公開討論会を通じて、これまで以上に市民の政治、選挙に対する参画意識を高め、投票率向上の一助となることを目指します。

【かけがえのない出会い】

松山青年会議所の会員減少は喫緊の課題であり、平均年齢が上がり、在籍年数も短くなっております。会員数の減少は全国的にも抱える課題です。しかし、青年会議所の「創始の精神」は脈々と受け継がれております。連綿と受け継がれた事業を確実に次世代につなぐためにも、会員拡大を積極的に行います。メンバー一人ひとりが青年会議所の魅力を理解するとともに、会員拡大への意識を高め、松山青年会議所の魅力を発信することで会員拡大へとつなげます。これまでの蓄積された入会についてのデータを生かすとともに、様々な交流会にも参加し入会を促進します。また常に高い目標を掲げ、目標に向かって邁進し、さらなる高みに向けて突き進む気概を持った人財を育成します。青年会議所には多くの貴重な機会があります。愛媛ブロック、四国地区、日本青年会議所の運動にも連携していくことで、様々な経験をさせていただき、メンバーの資質向上にもつなげます。

【自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ】

自ら機会を創り出すことによって、経験という学びがメンバーの成長につながります。メンバーの成長が無ければ松山青年会議所の成長はありません。また課題を解決するためには、多くの時間を設けて徹底的に議論をする場が必要です。JCは事業を構築する中で、主役、時には脇役や観客となって、様々な役割をこなすことが出来るプロフェッショナルな団体だと確信しております。私は松山青年会議所運動を力強く展開し、今までよりも市民に一步頼られる団体を目指します。そして、この団体に所属して良かったと思える仲間を増やします。機会によって自らを変え、松山の未来を切り拓き、明るい豊かな社会を築き上げましょう。